

意見用紙にいただいた主なご意見と市の考え方

説明会の際に95名の方から意見用紙でご意見をいただきました。主なご意見と市の考え方についてとりまとめました。

主なご意見	市の考え方
<p>これまでの検討、経緯について</p>	
<p>今回の説明会では経緯に関する説明がない。</p>	<p><博物館機能の見直しについて> 1973年に町田市郷土資料館として開館した町田市立博物館は2000年代に入ると、老朽化や狭隘化が博物館の運営を続ける上での課題となり、2008年に市民参加により実施された「事業仕分け」では、本来の役割を果たせていないことから「不要」と評価されました。「事業仕分け」での指摘を踏まえ、2008年度から博物館機能の再構築について「町田市博物館等の在り方検討委員会」(庁内委員会)を設置し検討をしてきました。</p>
<p>この計画に至った経緯から説明してください。(規模、立地)</p>	<p><建設予定地の整理・検討について> 2009年実施の「博物館に関する意識調査」の結果等を踏まえ、2010年から「町田市の博物館等の新たな在り方構想検討委員会」において検討を進めました。 2012年には博物館機能の再整備に向けた調査・検討のなかで、建設候補地に求められる条件として、以下のとおり整理を行いました。 (1)「美術ゾーンの形成」を図るには、国際版画美術館と近い場所が望ましい (2)文化芸術に親しむ場として緑に囲まれた静かな空間が望ましい (3)市の玄関口である町田駅からのアクセスがよいことが望ましい</p>
<p>美術館の展示室の構成を見直して美術館の中に工芸などのコーナーを作り、収蔵庫だけ別に建てればいいのでは？</p>	<p><国際版画美術館に隣接して建設することについて> 2014年の「(仮称)国際工芸美術館整備基本計画」において、国際版画美術館との相乗効果を高めるため、国際版画美術館と隣接する2ヶ所(国際版画美術館北側、町田荘跡地)を建設候補地とし、「アクセス・回遊性」、「施設の管理運営」、「建設工事」という3つの視点から比較検討を行いました。 多くの方にご来館いただき地域を活性化するという視点に立ち、町田駅周辺の中心市街地からのアクセスや回遊性の点で、優位にある国際版画美術館北側を(仮称)国際工芸美術館の建設候補地と決めました。</p>
<p>工芸美術館をつくるのであれば他の土地や、様々な施設との合築などを検討すべきだと思います。</p>	<p><美術館の整備を公園と一体的に行う方針への転換について> 2018年6月議会で国際工芸美術館のあり方に対し様々な課題等が指摘され、計画を見直すこととしました。国際工芸美術館の整備として単体でとらえるのではなく、「子どもと体験」という新たな視点を取り入れ、公園と版画美術館、まちなかとのつながりや回遊性なども含め、総合的な視点からあり方を再度検討することとなりました。 そこで、これまで委員会等でご意見を頂いてきた専門家、学識経験者の方だけでなく、より市民の皆さまや公園をご利用の方からも多様な方たちでご意見を頂くため、2019年8月に市立国際版画美術館講堂にて開催した「～みんなで芹ヶ谷公園の未来を考えよう～」と題したスタートアップミーティング以降、多面的な視点から総合的に検討してまいりました。 ※「別添資料1:博物館のあり方についてこれまでの取り組み」参照 ※「別添資料2:芹ヶ谷プロジェクトこれまでの取り組み」参照</p>
<p>整備計画、費用について</p>	
<p>もう一度スケジュール(全体)を見直して下さい。</p>	<p><プロジェクトの意義について> 芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトを通じて、訪れる人々がそれぞれに充実した時間を過ごすことができる、とりわけ子どもたちが「楽しかった」「また来たい」と思う体験ができることを目指しています。そういったまちづくりを実現することで、市民の皆様のまちへの期待や希望、愛着を高めていくことはもとより、市外からの憧れや注目も集めていきたいと考えております。</p>
<p>これだけ反対があってもつくる必要は無いのではないかと。</p>	<p>厳しい財政状況にあっても、10年、20年先を見据えて、市民の皆様の明るい希望やまちの愛着につながるプロジェクト、市外の方々の憧れとなるようなプロジェクトには果敢に投資をしていくことで将来にわたって人々を惹きつけ、事業者を惹きつけ、未来へつながる消費、投資を呼び、まちに活気をもたらします。多くの人々や多くの事業者から「選ばれるまち」として、町田というブランドを高め、将来世代につないでいけるよう取り組んでまいります。</p>
<p>美術館の既存の施設をリニューアルする等の予算が組むのが良いと思います。</p>	<p><美術館の整備費について> 2018年6月以降、(仮称)国際工芸美術館の整備として単体でとらえるのではなく、「子どもと体験」という新たな視点の取り入れ、公園と版画美術館、まちなかとのつながりや回遊性なども含め、検討を進めてきました。 (仮称)国際工芸美術館整備については、約28.5億円を見込んでいます。また、版画美術館との一体化工事に約3.6億円、(仮称)公園案内棟／喫茶／工房・アート体験棟の概算工事費として約8億円を見込んでいます。</p>
<p>今の工芸美術館の計画を考え直してほしい。コロナで生活様式も変わっている。</p>	<p><美術館の整備費について> 2018年6月以降、(仮称)国際工芸美術館の整備として単体でとらえるのではなく、「子どもと体験」という新たな視点の取り入れ、公園と版画美術館、まちなかとのつながりや回遊性なども含め、検討を進めてきました。 (仮称)国際工芸美術館整備については、約28.5億円を見込んでいます。また、版画美術館との一体化工事に約3.6億円、(仮称)公園案内棟／喫茶／工房・アート体験棟の概算工事費として約8億円を見込んでいます。</p>
<p>資材高騰により建設費は今いくらになっているのか。</p>	<p><美術館の整備費について> 2018年6月以降、(仮称)国際工芸美術館の整備として単体でとらえるのではなく、「子どもと体験」という新たな視点の取り入れ、公園と版画美術館、まちなかとのつながりや回遊性なども含め、検討を進めてきました。 (仮称)国際工芸美術館整備については、約28.5億円を見込んでいます。また、版画美術館との一体化工事に約3.6億円、(仮称)公園案内棟／喫茶／工房・アート体験棟の概算工事費として約8億円を見込んでいます。</p>
<p>このお金を基礎的な市民生活UP(底上げ)に使ってほしい。</p>	<p><美術館の整備費について> 2018年6月以降、(仮称)国際工芸美術館の整備として単体でとらえるのではなく、「子どもと体験」という新たな視点の取り入れ、公園と版画美術館、まちなかとのつながりや回遊性なども含め、検討を進めてきました。 (仮称)国際工芸美術館整備については、約28.5億円を見込んでいます。また、版画美術館との一体化工事に約3.6億円、(仮称)公園案内棟／喫茶／工房・アート体験棟の概算工事費として約8億円を見込んでいます。</p>
<p>金額面での説明がほしい。</p>	<p><美術館の整備費について> 2018年6月以降、(仮称)国際工芸美術館の整備として単体でとらえるのではなく、「子どもと体験」という新たな視点の取り入れ、公園と版画美術館、まちなかとのつながりや回遊性なども含め、検討を進めてきました。 (仮称)国際工芸美術館整備については、約28.5億円を見込んでいます。また、版画美術館との一体化工事に約3.6億円、(仮称)公園案内棟／喫茶／工房・アート体験棟の概算工事費として約8億円を見込んでいます。</p>
<p>建設位置について</p>	
<p>新しい博物館を平地の新しい場所につくるべきです。</p>	<p>建設位置に関しましては、これまでの検討経緯を踏まえ、芹ヶ谷公園と一体的に整備するコンセプトのもと国際版画美術館の前から彫刻噴水、多目的広場までのエリアにおける建築の在り方について、何が重要かという視点で検討をしてきています。検討内容は大きく5点あり ①国際版画美術館前から多目的広場に広がる空間は、現在、来園者にとっての動線や公園で行われる活動のメインの空間であり、この空間を狭めることは望ましくないという点。 ②芹ヶ谷公園を特徴づける良好な風景となっているこの空間に、新たなボリュームのある建物が現れるのはふさわしくないという点。 ③(仮称)国際工芸美術館の開館後に、この空間を搬出入の車両が横切るような状況は好ましくないと考えた点。 ④前回の基本設計のように、平坦な部分から斜面側に少し食い込ませた形で建物を配置すると、既存の園路を分断する箇所が生じるため、これまでの園路をできる限り維持することが望ましいと考えた点。 ⑤新しい美術館を芹ヶ谷公園ならではの、かつ国際版画美術館とは異なる特色を持った美術館にしたいと考えています。版画美術館と工芸美術館で機能を共有する考え方のもと工芸美術館をコンパクトな美術館として計画することでランドスケープと一体となった美術館とした点</p>
<p>仮設駐車場で使われている空き地に工芸館を作るべきである。</p>	<p>美術館に至る道のりについても、もみじ園など既存の公園の魅力や再認識するための演出ができること、2つの美術館とそこで働くスタッフにとっても合理的な動線につなぐことなどの論点を重視した結果、現在の案がそれを生かせると同時に、(仮称)国際工芸美術館と公園の国際版画美術館とのつながりを強めることができると判断し、現在の建設位置を計画しています。</p>
<p>美術館の設置位置を変更してほしい。</p>	<p>美術館に至る道のりについても、もみじ園など既存の公園の魅力や再認識するための演出ができること、2つの美術館とそこで働くスタッフにとっても合理的な動線につなぐことなどの論点を重視した結果、現在の案がそれを生かせると同時に、(仮称)国際工芸美術館と公園の国際版画美術館とのつながりを強めることができると判断し、現在の建設位置を計画しています。</p>

意見用紙にいただいた主なご意見と市の考え方

説明会の際に95名の方から意見用紙でご意見をいただきました。主なご意見と市の考え方についてとりまとめました。

主なご意見	市の考え方
自然環境について	
緑は維持されるのか。具体的な説明が欲しい。	芹ヶ谷公園は、都市公園法に基づく都市公園であり、緑を活用して人が活動する場所として位置づけています。
緑豊かにはありがたいのですが、おそらく公園にタヌキ、ハクビシン、アライグマ等が生息していると思われるので対策をして頂けるとありがたいです。	市街地の中の都市公園として相応しい、明るく見通しの良い二次林とすることや、多くの方に公園を活用していただく施設整備の視点から、一部区域の樹木の剪定や伐採をすることは、今後とも必要であると考えています。
緑を大切にすると言いながら、緑を減少させることは矛盾している。	樹木の更新については、2017～2019年にかけて小田急線側の樹木の伐採・剪定を行いました。今後も市街地の中の緑にふさわしい林、見通しの良い形にできるよう、芹ヶ谷公園の自然環境に配慮しながら整備を計画してまいります。
自然に手を入れないで欲しい。	(仮称)国際工芸美術館の整備に際しても、建築物の配置や工事に伴う樹木の伐採を最小限度に留めるとともに、可能な限り補植を行います。
公園の樹木の整備を先に考えて欲しい。	引き続き、芹ヶ谷公園の魅力である自然環境の担保と施設整備のバランスを考慮しながら、芹ヶ谷公園芸術の杜“パークミュージアム”の整備を進めてまいります。
必要最低限の公園整備でもよいのかと思う。	なお、「東京における自然の保護と回復に関する条例」に基づき、現在の希少植物の状況について調査を行うなど、条例に則り進めてまいります。
エレベーターについて	
版画美術館へのアクセスをやすくするためのエレベーターの設置はすすめてほしい。	かねてから地域住民の方々からご要望のあった公園内の高低差を解消するエレベーターについては、来園者や近隣住民の方々にとってわかりやすく自転車も利用可能なエレベーターを整備します。
自転車用のエレベーターは必要とないと思う。	美術館の鑑賞を目的として訪れた場合の館内動線については、国際版画美術館の展示と(仮称)国際工芸美術館の展示の両方をお楽しみ頂ける流れを意識して設計しております。各展示フロアは屋内空間であるブリッジで接続されており、エレベーターもご利用頂けますので、車いすの方やベビーカーをご利用の方でもスムーズに移動が可能です。
版画美術館との一体化のためのエレベーターと両館をつなぐブリッジは必要か疑問です。	
美術館のあり方について	
コレクションが良いのだからもっと積極的に発信して集客して欲しい。	<これからの美術館のあり方> これからの美術館は、社会教育施設および文化施設として、従来の博物館法に示されてきた展覧会の開催や作品収集・保存といった美術館の根幹となる活動を引き続き実施・充実させていくことに加え、新規に、社会状況の変化を取り入れた改正博物館法が示す、地域の教育や文化、観光、産業、国際交流などの振興や福祉への取組に貢献し、地域の活力の向上に寄与する場として機能していくことを目指すべきと考えています。
素晴らしい企画をすれば地の利に関係なく人は来ると考える。収蔵品にかかわらず市民が行きたくする企画をすれば多勢来館したと思う。	<美術館の展示企画について> 国際版画美術館は1987年に開館して以来、古今東西の版画をさまざまな企画によって紹介し、企画展だけで約220万人の観覧者を迎えてきました。また、町田市立博物館は、1973年の開館以来、273回の展覧会を行い、延べ114万人の観覧者にお越しいただきました。今後も、時代のニーズを見極めつつ、調査研究にもとづいて、さまざまな角度からの魅力的な内容の企画展を開催してまいります。また、版画美術館と工芸美術館と連携した企画展によって、版画・工芸を中心とする多種類の美術作品を展示し、展覧会に奥行きや多面性を持たせてまいります。
人と作品の出会いも必要なことは理解できます。でももっと広いエリアで(一体化に固執せず)アート地域という考え方もあるのではないのでしょうか？	
公園にしている美術館はいかないことが多いです。ぜひ、もっといきたくなるようなものにして下さい	
アート・出会いの広場について	
アート、工房だけでは人はこない。若者から思うこと、芹ヶ谷公園は小学、中学校の作品展をやる場所のイメージが強いと思います。つまり授業でしかいかない場所のイメージが強いです。	「アート・出会いの広場」は、美術館に訪れた方も、これまで美術館に来館する機会が無かった方でも気軽に入ることができる空間となることを目指しています。 導入展示として常設・企画展に関連する展示をすることで、美術館のエントランスとして、これから展示を観る方が、展示室に行くまでの気分を高めたり、別の目的で訪れた方が、導入展示をきっかけとして、常設・企画展への来場を促すPRの場でもあります。 ミュージアムショップでは、両館に関連した商品が購入できるほか、座って一息つけるように飲み物の提供も想定しています。美術館、美術品との距離を縮めるため、レクチャールームとして使用することは、有効な使い方の一つだと考えており、展示室でのギャラリートークだけではなく、開けた空間で気軽に作品の説明を聞くことができる場とします。
アート出会いの広場には何を展示するのですか？	「アート・出会いの広場」は、来館者の方のもっと知りたい、気軽に楽しみたいという気持ちや、学芸員の多くの方に伝えたいという気持ちをつなぐ場としての役割を担っており、市民の方の発表・表現の場として、参加型のワークショップや、パフォーマンスなど様々な用途に使うことを想定しています。
版画工房や喫茶について	
今のアトリエはとても使いやすくスタッフも素晴らしいと思います。この場所がこのまま継続されることを希望します。	(仮称)公園案内棟／喫茶／工房・アート体験棟は、パークミュージアムへの玄関口であり、公園来園者、施設利用者、周辺地域の方々などを始め、パークミュージアムに興味を持つ全ての人々へ開かれた施設です。
コンサートのできるホールも版画自習室もそしておだやかな場の喫茶室を移動などとんでもない無駄使いです。このままを存続させて下さい。	「自分も工房を利用してみよう」「自分も芹ヶ谷公園に繰り出して何か新しいことをやってみよう」といった興味・関心・感動のきっかけづくりができる空間を目指しています。 このきっかけを通じて、人々が芹ヶ谷公園へ行くことで、自分だけのお気に入りの場所で寛ぐ、広場で遊ぶ、みどりを感じながら創作活動に打ち込む、芹ヶ谷公園ならではのアートを発見するなど、色とりどりのアートや活動が公園全体に広がっていきます。
体験はいろいろ工夫すれば出来るので新しい体験棟はなくていいと思います。	国際版画美術館は1987年の開館以来、「鑑賞」「創作」「発表」の機能を一体的に提供するという役割を担ってきました。版画に加えてガラスや陶磁器などの制作もできる新しい工房と二つの専門美術館とを密接に連携、一体化させることで、これまでの役割をより発展・継承させていきます。
版画工房が美術館にあることのコンセプトをどう考えていますか？	喫茶機能についても、美術館とは別棟とすることで対応できる自由度が増す等、今後の運営やサービスのあり方も踏まえ総合的に検討した結果、機能の移転を行うこととしました。

意見用紙にいただいた主なご意見と市の考え方

説明会の際に95名の方から意見用紙でご意見をいただきました。主なご意見と市の考え方についてとりまとめました。

主なご意見	市の考え方
(仮称)国際工芸美術館の外観、収蔵庫について	
<p>収蔵庫の建物の外観が良くない。公園外への建設を検討すべきです。</p>	<p>ガラス・陶磁器に特化した新たな美術館として、独自のアイデンティティを持つことも重要です。国際版画美術館の特徴である煉瓦とは異なる素材によって、(仮称)国際工芸美術館の外観を構成しようと考えています。</p> <p>また、周囲に圧迫感を与えないよう、建物を大きく展示室と収蔵庫に分節し、双方のボリュームを異なる外装仕上げとすることで、建物として大きく見えないよう配慮しています。</p> <p>経年変化に対しては、汚れが目立たない色として色味に幅を持たせたり、また、外壁の貼り方に変化を持たせることで、圧迫感を与えない印象とする予定です。</p> <p>なお、設計にあたっては、町田市公共事業景観形成指針に基づき、景観審議会の委員の方のご意見も伺いながら進めています。</p>
駐車場整備について	
<p>今後公園を訪れる人口がかなり増えると予想される。特にイベントがあると周辺道路が渋滞する。駐車場、自転車置場の整備、増設が必要である。</p> <p>休日はグラウンド側の駐車場が満杯(グラウンド利用者が多く利用)で駐車待ち列が出来ている。沢山の人が利用して欲しいならインフラ整備も必要です。</p>	<p>都営住宅跡地の部分に、普通乗用車用の駐車場を200台設ける計画です。芹ヶ谷公園周辺の道路整備状況を踏まえて、駐車場整備時期を今後検討してまいります。</p>
中心市街地とのつながりについて	
<p>町田市の魅力を高めるために新しい工芸美術館を整備することは良いと思います。しかし現状の計画では、町田駅周辺に遊びに来た人が気づくことはなく、公園に足を延ばすことは期待できない。</p> <p>駅からのアプローチが電車である人に分かりづらいので検討が必要。</p> <p>弱者への配慮は必要だと考えます。並行して駅前のバリアフリー化、道路の整備など必要かと思われます。</p> <p>美術館と公園案内棟の間の道は地域住民の生活道路である。交通の安全性は確保されるのか？</p>	<p>芹ヶ谷公園は、町田駅からも徒歩圏内で訪れることのできる自然豊かな公園であり、多くの市民の憩いの空間です。公園という市民に開かれた身近な空間が、多様なアートに親しむ入口となることを目指して、芹ヶ谷公園と(仮称)国際工芸美術館と国際版画美術館の一体的な整備を行っています。</p> <p>2021年度には、「パークミュージアム」の将来の姿をイメージできるような取組みとして、公園と中心市街地との連携を意識したイベントを、市民の方と一緒に行いました。地域の方々等との連携を強め、つながりを構築していくことで、将来「パークミュージアム」として多くの方に愛される公園となるよう、継続して進めていきます。</p> <p>交通基盤の整備に関しましても、市政へのご意見として承り、担当の部署とも情報を共有してまいります。</p>
説明会について	
<p>工芸美術館新設、版画美術館改修、アート体験棟新設について話し合い、対話の積み重ねが出来る場を設定して下さい。</p> <p>整備計画自体を見直してほしい。</p> <p>市長の口から直接説明を聞きたい。</p> <p>みんなで相談しながら進めてください。</p> <p>市民の、少なくとも芹ヶ谷公園を愛して集まった市民の声を計画に反映すべきだ。</p> <p>3月市議会の付帯決議を考慮して、公開した場で地域住民及び関係団体等との意見交換を実施していただきたい。</p> <p>初めて参加しましたが、そもそものところで反対ありきのネガティブ意見ばかりなんですね～ しんどいです。役人をいじめて楽しむ場か。</p> <p>2021年5月の計画と2022年の変更点はよくわかった。</p> <p>工芸館、博物館を是非復活して頂けたら嬉しいです。版画美術館の今までの活動はとても興味深く今日この場に参加させて頂きました。今後も楽しみにしています。</p> <p>整備計画自体を否定する集会に思える！建設的な意見を聞ける説明会にして欲しかった！！</p>	<p>令和4年(2022年)第1回定例会文教社会常任委員会でのご意見も踏まえ、市民からご意見、ご要望を受ける機会を設けるために、今回の「芹ヶ谷公園」芸術の杜”パークミュージアム整備計画説明会」を開催しました。</p> <p>今後も引き続き、市民への説明の機会、市民から要望を受ける機会を広く設けるとともに、地域住民及び関係諸団体等との理解を深めることに努めながら、パークミュージアム整備事業を進めてまいります。</p>

意見用紙にいただいた主なご意見と市の考え方

説明会の際に95名の方から意見用紙でご意見をいただきました。主なご意見と市の考え方についてとりまとめました。

主なご意見	市の考え方
整備に対する期待の声	
<p>芹ヶ谷から町田の文化を発信してください。</p>	<p>この度はご参加頂きありがとうございました。引き続き対話の場やご意見をお伺いする多様な機会を設けてまいりますので、今後ともよろしく願います。</p>
<p>誰もが納得できる計画は存在しないと思う。芸術の杜パークミュージアムが心地のいい空間になれば良いと思います。</p>	
<p>今回の説明会に来ている人は文句を言いたいだけの人です。町田市の人はどうでもいいというのがおそらく実態です。</p>	
<p>説明会開催ありがとうございました。素敵なパークミュージアムができることを期待しています。</p>	
<p>陶芸の全般ができるようにして土器も展示できるようにしてほしいです。</p>	
<p>賛成して期待している市民もいると思う。芸術の杜として版画、ガラス工芸館にかかわらず、アートに関して多く野人が来るようなまよおしをして収益をあげるべきだと思う。</p>	
<p>国際版画美術館、国際工芸美術館、パークミュージアム、芸術の杜という何相応しい子供じみていないきちんとした建物、綺麗な緑、公園にして頂きたい。最初に良いものを作っても、その後の維持管理が行き届いていない場合が多々ある。担当者が変わっても最初のコンセプトをずっと持ち続けて欲しい。</p>	
<p>自分の住む町に美術館があるという事は心の豊かさというかとてもすてきなことだと思います。新しい公園、美術館計画、私は楽しみにしています。</p>	
<p>町田市がアートに力を入れて下さることはとてもうれしいことです。</p>	